

# NETGEAR® インストールガイド

## NETGEAR® ReadyNAS™ 2100

本ガイドの手順に従って、NETGEAR® ReadyNAS™ 2100 をインストールしてください。ユニットの構成と操作方法については、*ReadyNAS 2100 ユーザマニュアル*を参照してください。*ReadyNAS 2100 ユーザマニュアル*はインストールCDもしくはNETGEAR サポートサイト <http://www.netgear.jp/supportInfo/> から入手できます。本ガイドの説明は、本ユニットが工場出荷時の初期ディスク構成（X-RAID2）を使用しているものと想定しています。

想定所要時間：20分

**注意：**ディスクのないユニットは、進める前にディスクのインストールおよびRAIDの初期化が必要です。対応ディスク一覧については、<http://www.readynas.com/ja/>を参照してください。ディスクのインストールとRAIDの構成についての説明は、*ReadyNAS 2100 ユーザマニュアル*を参照してください。

## 基本設定

次の手順に従い、NETGEAR® ReadyNAS™ 2100 を簡単にセットアップすることができます。

## RAIDar ユーティリティのインストール

製品のインストールCDからRAIDar ユーティリティを、PCにインストールしてください。Windows、MAC、LinuxバージョンのRAIDarがあります。

## ユニットの接続

最初のセットアップ時は、ReadyNASのLAN1 Ethernetポートをネットワークに接続し、電源を入れてください。起動には約1分かかります。工場出荷時の初期設定は、DHCPでIPアドレスを取得するようになっています。

**注意：**起動後、本体に割り当てられたIPアドレスがステータス部分に表示されます。

## ユニットへのログイン

1. RAIDar ユーティリティを実行すると、ユニットが検出されます。

ヒント：ReadyNAS 2100 に必ず同じIPアドレスが割り当てられるようDHCPサーバで設定しておくと、管理がしやすくなります。

2. [設定]をクリックし、ReadyNAS 2100のFrontView画面をウェブブラウザで起動します。ログイン画面が表示されます。初期設定のユーザ名は**admin**、パスワードは**netgear1**です。

ログインすると、FrontView ユーティリティのホームページが表示されます。



## セットアップウィザードによる基本設定

セットアップウィザードを利用して、基本的な設定を行います。バックアップ、ストリーミングメディアサーバー、プリンタ、VLAN、ユーザアカウントや割り当てなどの設定オプションについては、*ReadyNAS 2100 ユーザマニュアル*を参照してください。

**注意：**セットアップウィザードをスキップする場合は、警報メールアドレスを別途設定し、管理者パスワードの変更などを行い、パスワードリカバリの質問を設定してください。

1. 工場出荷時には、セットアップウィザードが有効になっています。[次へ]をクリックしてウィザードを進めます。

2. [時計]タブのページで初期設定のタイムゾーン、時刻、NTP オプションを設定します。[次へ]をクリックして進みます。

3. [警報]タブのページで、少なくとも1つのメールアドレスをシステム警報用に入力してください。[次へ]をクリックして進みます。

4. [イーサネット]タブページで、IPアドレスを設定するか、初期設定のままDHCPを選択します。

[次へ]をクリックして進みます。

5. [グローバル設定]タブページで、ユニットのホスト名を変更することができます。また、静的IP構成を使用する場合、デフォルトゲートウェイとDNS設定を構成する必



要があります（初期設定のDHCP構成のユニットを使う場合、これらの設定を変更する必要はありません）。[次へ]をクリックして進みます。

6. [管理者パスワード]ページで、システムログインパスワードを変更し、リカバリの質問、回答、メールアドレスを入力してください。これらの変更は、別途メモを残しておいてください。[次へ]をクリックして進みます。

7. [セキュリティモード]タブのページで、ユーザーやグループアカウントに基づき共有へのアクセスを制限する[ユーザー]の初期設定オプションを設定します。FrontViewは、ネットワークで検出した最初のグループ名を使用しようとします。見つからない場合、初期設定の「VOLUME」をワークグループ名として使用します。NAS本体を追加するワークグループ名を指定してください。[次へ]をクリックして進みます。

8. [アカウント]タブページで[ユーザーの追加]をクリックします。新しいユーザーとユーザーパスワードを追加します。[次へ]をクリックするとウィザードが終了します。アカウントのセットアップに関する完全な説明は、*ReadyNAS 2100 ユーザマニュアル*を参照してください。

これで基本セットアップは完了です。次に、ReadyNASの共有にアクセスできるかどうかを検証します。

## 共有ストレージへのアクセス

以下の手順でReadyNASの共有へアクセスします。

初期設定では、以下のファイル共有プロトコルが有効になっています：CIFS、AFP(BonjourとATPの両方でアドバタイズ)。HTTP/S、FTP、NFS、およびRsyncは初期設定では有効になっていません。

LinuxやUnixワークステーション、ドライブマッピング、およびその他のファイル共有オプションに関する詳細は、*ReadyNAS 2100 ユーザマニュアル*を参照してください(Unicodeや英数字以外を使用するファイル名への対応も含めます)。



## Windows PC からのアクセス共有

- Windows で共有の一覧を見たいときは、RAIDar で [ブラウザ] をクリックするか、エクスプローラのアドレスバーに ¥¥<ip\_address> または ¥¥<hostname> と入力します。



- 指示が表示されたら、ユーザ名とパスワードを入力して ReadyNAS に接続します。



Windows エクスプローラが ReadyNAS 共有の内容を表示します。



## MAC OS X から共有にアクセスする

- OS X で、AFP を通して同じ共有にアクセスするには、[Finder] を開き、[共有] セクションで ReadyNAS ホスト名を確認してください。



- ホスト名をクリックし、共有を表示します。

## 操作上のヒントと注意点

トラブルを回避して ReadyNAS 2100 を最大限に活用するために、以下のガイドラインに従ってください。

### 電源ボタンの操作

ユニットを起動する際は、約 1 分ほどかかります。ユニットの電源を切る際は、前面の電源ボタンを 2 度押してください。これで正常なシャットダウンができます。その他のシャットダウンやディスクのスピンドアウンオプションについては、*ReadyNAS 2100 ユーザマニュアル*を参照してください。

### 設置場所

排熱用の通気孔がふさがれない場所に設置してください。

### UPS の使用

無停電電源装置 (UPS) を利用すると、停電発生時でも ReadyNAS 2100 を正しく自動シャットダウンできます。UPS の使用については、*ReadyNAS 2100 ユーザマニュアル*を参照してください。

### FrontView のステータス情報

FrontView 設定ユーティリティの下方には、ワークグループの接続、ディスク、ファン、温度、UPS (あれば) の状態を示すカラーステータスランプがあります。



アイテムの詳細をご覧になるには、ステータスランプをダブルクリックします。

### データ保護とボリューム拡張

ディスク 1 台の装置では、冗長性がなく、ディスクの故障からデータを保護することができません。ディスクを冗長化する際は、1 台目のディスクと同容量、もしくはそれ以上のディスクを追加します (ReadyNAS 2100 の電源を落とす必要はありません)。ディスクのサイズ次第で、2 ~ 3 時間以内に、データボリュームが完全に冗長化します。このプロセスはバックグラウンドで実行されるため、ユニットへのアクセスには、何の支障もありません。ディスクの台数を増やす以外に、既存のディスクを大容量のものと交換することでも、ディスク容量を拡張できます。X-RAID2 は自動的にストレージの " 垂直な " 増分拡張を図ります。X-RAID2 では、ディスクのフォーマットやシャッフルなしで、これらの操作を行うことができます。

## テクニカルサポート

本製品の底部に張られたシリアルナンバーを確認し、<http://www.netgear.jp/registry/>にて製品を登録してください。

電話によるサポートサービスを受けるには、ウェブサイトまたはお電話による事前登録が必要です。世界各地のカスタマーサポートセンターの電話番号は、本製品付属の保証およびサポート情報カードに記載されています。

ウェブサイト <http://www.netgear.jp/supportInfo/> で製品のアップデートおよびウェブサポートに進んでください。

### 情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。



201-11611-02



2009 年 3 月